

登録コード	E2701900	開講年度	2026			
授業科目	木材加工実習				担当教員	村松 浩幸
英文授業名	Woodworking				副担当	
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限～6時限前半	対象学生
講義室	教育W 1 1 2		授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				木材加工の指導に関する専門的知識と技能を身につけることができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	木材加工基礎の学習を踏まえた上で、各内容について実習に取り組む。各実習で達成すべき技能レベルに達しない場合や小テストで基準点に達しない場合は、再試験の機会を設け、一定レベル以上の技能習得を目指す。					
(5)授業計画	第 1回 : 木材加工基礎の復習と角材加工の基本 第 2回 : 組み手加工の実習 第 3回 : 組み手加工の実習 第 4回 : 3D-CADによる木材製品の設計 情報機器の活用を含む 第 5回 : 協働によるSPF材の部品加工実習 (木工機械の実習含む) 第 6回 : 協働によるSPF材の部品加工実習 (木工機械の実習含む) 第 7回 : 協働によるSPF材を用いた製作品の組み立て実習 (電動工具の使い方の実習含む) 第 8回 : 協働によるSPF材を用いた製作品の塗装実習 第 9回 : 個人製作品の設計と罫書 情報機器の活用を含む 第10回 : 個人製作品の部品加工実習 (木工機械の実習含む) 第11回 : 個人製作品の部品加工実習 (木工機械の実習含む) 第12回 : 個人製作品の部品加工実習 (木工機械の実習含む) 第13回 : 個人製作品の塗装実習 第14回 : 実習のまとめ (含む授業アンケート) 定期テスト(実技テスト)					
(6)成績評価の方法	試験 (実技も含む) (40%・木材加工, 製図の理論や知識, 技能), 課題の成果 (40%・加工技能), 実習 (身支度も含む) の取り組み (20%・製作指導力) で総合して評価。 ・実習課題については, 課題毎に正確さ, 仕上がり等の評価項目を設定し, 5段階でポイント化し, 総得点を演習課題評価とする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	試験 (実技も含む) (40%・木材加工, 製図の理論や知識, 技能), 課題の成果 (40%・加工技能), 実習 (身支度も含む) の取り組み (20%・製作指導力) で総合して評価。 ・実習課題については, 課題毎に正確さ, 仕上がり等の評価項目を設定し, 5段階でポイント化し, 総得点を演習課題評価とする。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(8)事前事後学習の内容	・演習により時間を割けるように, Google Classroom上に事前学習課題や参考資料を提示しておく。なお, 60分以上の事前学習が必要である。また, 授業後は復習の課題や演習課題を共有し, 学習内容の定着をはかる。					
(9)履修上の注意	(1)製作実習時は, 作業服またはつなぎと帽子を必ず着用のこと 身支度ができていない場合は, 実習ができない。 (2)鋸と鉋を準備する (木材加工基礎時に使用したものでよい) 材料費が別途かかる。 (3)木材加工基礎が履修済みであること (単位取得できていない場合は受講不可)。 (4)実習課題が間に合わない場合は, 適宜授業外にも取り組むこと。					
(10)質問, 相談への対応及び連絡先	・研究室 木曜日 13:00～14:00 238-4175, muramatu@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	特になし					
【参考文献】	技術・家庭科技術分野教科書 (検定済み教科書) 東京書籍					